

授業改善推進チーム活用事業の取組について

本事業は、教科指導における豊富な経験や実践的指導力を有する授業改善推進教員が「チーム」となり、学校全体の授業改善に取り組むことを目的として実施しています。留萌管内では、羽幌町立羽幌小学校 佐藤元希教諭、初山別村立初山別小学校 藤澤伸枝教諭がチーム員として活躍しています。

このたび、両校に北海道教育庁学校教育局学力向上推進課職員が訪問し、本号では、両校及びチーム員の活躍等についてとりまとめましたので各所属において校内研修等にご活用下さい。

羽幌小学校及び初山別小学校の取組

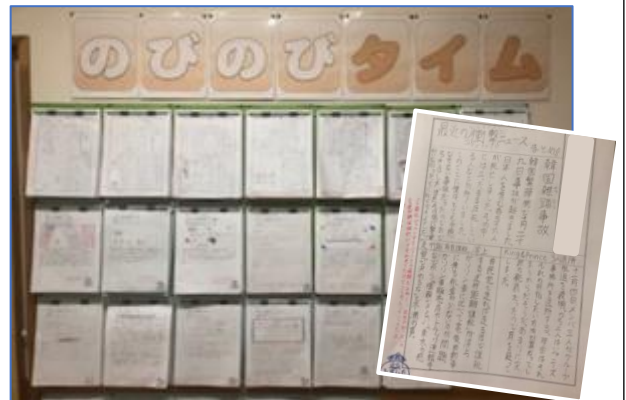
「言葉による見方・考え方」を意識した国語科の授業



両校では、単元の指導計画の充実を目指した国語科の授業改善に取り組んでいます。

羽幌小学校では、「お気に入りの表現」を教科書全文から見つける授業が行われていました。児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になれるような創意工夫ある授業で、児童は着目した言葉を端末で共有し、それぞれの言葉がもつ感じ方について端末内でグループニングなどの学習活動が見られました。

家庭学習の質の向上を図った取組

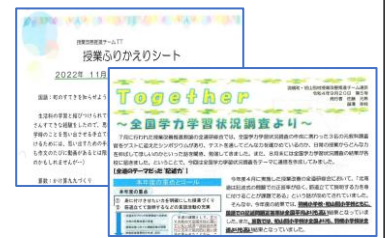


両校では、知識及び技能の習得のほかに、探究的な学習を取り入れた家庭学習を行っています。

初山別小学校では「のびのびタイム」として家庭学習の取組を全校で実施しています。学年の実態に応じて紙面を工夫し、学校での出来事や、時事的な事柄など児童それぞれの興味関心に基づいて各教科の学びを生かして行うことができる取組が見られました。

「授業改善推進チーム」による取組

両校とも初任段階の教員が多く活躍しており、推進チームから、単元を見通した授業づくりへの助言を得て、毎時間の授業後のフォローアップを行うなどOJTに熱心に取り組まれています。また、管理職と連携し、今年度の全国学力・学習状況調査結果及び問題をもとにした研修を行うなど検証改善サイクルの推進に取り組まれています。



単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業改善 ～国語科と算数科における授業改善を例に～

講話：北海道教育庁学校教育局学力向上推進課主査 丸山 敏儀
次の内容について理解を深めました。

★国語科における授業改善の方向性★

- ①育成を目指す資質・能力を明確にすること
- ②質の高い言語活動を位置付けた単元を構想すること
- ③国語科で育成すべき資質・能力と他教科等との関連を図ること

★算数科における授業改善の方向性★

- ①算数科における課題の見られる指導方法を元にした改善の具体
- ②質の高い数学的活動を位置付けた単元を構想すること



※本講話資料は、留萌教育局義務班から提供可能ですので、ご検討下さい。